



支援部ネット

令和4年度
すながわ高等支援学校
研究支援部



初めに

この支援部ネットでは、支援教育に関する情報や校内での取り組みなどをお伝えしていきます。今回は、ジェンダー平等教育について、研修で学んできたことをお伝えします。ぜひご一読ください。

ジェンダー平等教育の現状は

男女混合名簿や、「～さん」という呼称の統一が浸透し、学校教育の場は表面的にはジェンダー平等の意識が高まってきたように思えます。しかし、大学の進学率や専攻分野に男女差があるなど、教育においてもいまだにジェンダーによる格差は残っています。

大学(学部)への進学率は、男子 57.7% 女子 50.9% (2020 年度)
専攻分野別に見ると、人文科学の全課程や薬学・看護学等及び教育の大学(学部)及び大学院(修士課程)では女子学生の割合が高い一方、理学及び工学分野等では全課程で女子学生の割合が極めて低く、専攻分野によって男女の偏りが見られる。(内閣府男女共同参画局より)

これは、学校生活の中で生徒が自然と「男は仕事、女は家庭」といった「性別役割分担意識」を学びとっていることが要因の一つだと考えられます。ジェンダーによる差を生み出す見えない仕掛け、これが学校の中の「隠れたカリキュラム」です。

「隠れたカリキュラム」とは…

「隠れたカリキュラム」とは、教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生活を営む中で、児童生徒自らが学びとっていく全ての事柄を指すものであり、学校・学級の「隠れたカリキュラム」を構成するのは、それらの場の在り方であり、雰囲気といったものである。

(文部科学省 人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ] より)

男女別の並び方や色分け、教員からの声掛けや発言などがジェンダー平等教育の観点における「隠れたカリキュラム」に当たります。性別による決めつけや、決めつけにつながる男女分けなどは、生徒が持っている個性や可能性を狭めてしまうことにつながります。

例えば、こんなことはありませんか？

- 荷物を運んでもらいたいとき、男子にだけ声を掛ける。
 - マラソンでの声掛けで、男子には「あと〇周くらいいいけるやろ！」と言い、女子には「あと〇周やけど大丈夫？」と聞く。
- ➡「男子は体力があるが、女子は体力がない」と刷り込んでしまう。

- 難しい問題での声掛けで、男子には「もう少し頑張って考えてみて。」と促し、女子には「難しかったかな、これはね…。」と教える。

➡「男子は期待されるものだが、女子はできなくてもよい」と刷り込んでしまう。

- 部活動のマネージャーは女子が多い。
- 「〇〇さんの、～～を手伝ってあげて。」と女子に頼む。

➡「女性はサポート役・ケアラー役」と刷り込んでしまう。家事分担意識を助長する。

- 「男の子なのに、包丁の使い方上手だね。」「女の子なのに、パソコン上手だね。」という褒め方をする。

➡「男子は〇〇が得意で女子は△△が得意だ」というイメージを学習させてしまう。

- 小学校→中学校→高等学校へと上がるほど男性教員が多くなる。小学校は、高学年になるほど男性教員が多くなる。
- 女性教員が補助的な役割の仕事をしている。

➡ 教員をモデルとして、性別役割分担意識を学び取ってしまう。

- 性別による役割や職業のイメージが固定化された表現(イラストやことば)を使う。



サラリーマン
ビジネスマン
看護婦
OL など…

➡ 「男性は仕事で女性は家事」「男性は中心的業務(リーダー)で女性は補助的業務」というイメージを刷り込んでしまう。

🍁 常に、意識しておきたいこと

- 生徒のいろいろな活動の中で、男女に分ける必要があるか？
- 生徒への発言や対応の中に、男女差はないか？
- 性別のイメージが固定化された表現を、無意識に使っていないか？
- 教員同士の仕事の分担に、男女差はないか？

生徒たちが固定的な性別役割分担意識にとらわれず、自分の個性を發揮し、お互いの個性を認め合えるような学校づくりをすすめていきたいと思ひます。



府立学校人権教育研修B(bコース ジェンダー平等教育) より

参考「男女共同参画社会の実現をめざす表現ガイドライン」(R3年3月 大阪府 府民文化部)
人権教育リーフレット「男女共同参画社会をめざす学校づくり」(大阪府教育センター)